

# GINGA REPORT 401

No.72  
2021.05

そらんぼ四日市 検索

発行日：令和3年5月1日  
編集&発行：四日市市立博物館・プラネタリウム  
電話：059-355-2700

## 5月の星空 星図：ステラナビゲータ9/(株)アストロアーツ

### 春のダイヤモンド

うしかい座のアルクトゥルス、おとめ座のスピカ、しし座のデネボラを繋ぐと春の大三角の出来上がりです。さらにもう一つ空の高いところに星を見つければ、次は綺麗なひし形が見えてきます。最後の一つは3等の星ですが、5月は頭の真上付近で輝くため、少し探しやすいはず。この星は、りょうけん座の「**コル・カロリ**」。春の大三角とこの星で出来たひし形を「**春のダイヤモンド**」、またの名をおとめのダイヤモンドと呼びます。

### 麦はどっち？

おとめ座は農業の女神デメテルの姿をした星座で、スピカは女神が持つ麦の穂先を表しています。ところが、日本では黄金色に輝くアルクトゥルスの方を麦星と呼びました。もうすぐ夏がやってきます。この色を見ると、麦色の飲み物が恋しくなってくるような気がしませんか。

5月15日21時の星図

### おとめ座とてんびん座



おとめ座は、正義の女神ディケであるという説もあります。ディケは、多くの神々が人間をみかぎり、天に昇った後も、一人地上に残って正義を守るために努力しました。しかし、人間が戦争を始めてしまうと、ディケも愛想をつかし、星になってしまったのだということです。また、星になった正義の女神は、アストライア（星乙女）と呼ばれるようになりました。  
**☞** ディケは人の善悪をはかるために天秤を使ったと言われています。それが、女神の足元で輝くてんびん座です。天秤を使うときには、正義を象徴する軽い羽毛を乗せたといいます。星座絵に描かれるおとめ座が、右手に羽を持った状態で描かれるのはこのためです。  
 身近なところでも、天秤は人の善悪を測るモチーフとしてイメージされます。例えば、日本の弁護士バッジにも、公正と平等を示すてんびんが描かれているんです。

©日本弁護士連合会

## 今月の天文トピック

### 赤くなるだけじゃない！？不思議な皆既月食

太陽によって出来た地球の影を月が通過するとき、月が暗くなったり、欠けたように見えたりする現象が月食です。皆既月食では月は真っ暗になるわけではなく、赤黒い色に見えます。これは、地球の大気を通った光のうち、赤い光だけが月に当たるからです。同じ理由で、地球の朝日や夕日も赤く見えます。  
 ただし、大気の中でも外層にあたる成層圏を通過する太陽の光には、逆の現象が起こります。赤い光が吸収され、青い光だけが直進して月面を照らすのです。この現象は、月の縁がターコイズ色に見える（右図矢印部分）ことから、ターコイズリングと呼ばれます。  
 しかし、月食の見え方は天候や地球大気の状態によって大きく変わります。毎回、全体が赤黒く、縁が青白く見えるわけではないのです。月食のたびに異なる、その不思議な色の変化を楽しんでみてはいかがでしょうか。



©鹿角平天文台通信

## 博物館主催 スターウォッチング

### きらら号観望会

【月を見よう】  
時| 5月22日(土)  
19:30~21:00  
所| 博物館前市民公園



### 皆既月食観望会

【夏の星空と皆既月食を見よう】  
時| 5月26日(水)  
20:00~21:30  
所| 伊坂ダムサイクルパーク  
管理事務所付近



## 編集後記

天文現象は何年に一度から何百年に一度という頻度で発生するものもあり、「今回を逃してしまうと次は何年後」なんてことが良く言われます。例えば、2012年6月に見られた金星の太陽面通過は、次回が2117年。昨年未の木星と土星の大接近は、次回が2080年。次も見られるかわからない、そんな天文現象だからこそ、一回一回を大切に楽しみましょう。

## 5月の月

- 4日 下弦
- 12日 新月
- 20日 上弦
- 26日 満月

※当日受付・参加無料です。  
 ※天候不良時は中止です。(通常3時間前に決定します)  
 ※マスク着用、手指消毒、観望会受付票の記入をお願いいたします。